

在学時代の思い出

——劇的サヨナラ初勝利——

同窓会長 大橋 光夫

私たちが初めて本校に第一歩を印したのは、開校式の前日でした。竣工したばかりの真新しい校舎に入り、机も椅子も黒板もまだビニールで包装されたままで、新設校としての息吹きを肌で感じました。2階のHR教室に入り、担任の先生より、校章、クラス章、通学バッグや印刷物が配布され、明日の開校式・入学式の予定や留意事項を聞いた時、自分は新設高校として産声をあげる成田北高等学校の第1期生になれるのだという思いに、胸が一杯でした。

午後より成田西高校へ移動し、開校式・入学式の準備と予行を終えて帰途に着いたのは、夜のとばりが下りたころでした。

昭和55年4月15日、成田西高校体育館において開校式・入学式が挙行され、私たちは晴れて本校生徒として出発できました。

入学してから2カ月して野球部が創設され、私は部員の一人となりました。ぬかるみのグラウンドで毎日夕方遅くまで練習し、家に帰ってボールの修理をするのが日々の日課でした。伊藤・川合両先生のご指導を仰ぎ、1年生だけのチームでしたが、強くなろうと互いに誓い合いました。

野球部が発足して2年目、正式に県高野連に加盟が認められ、夏の高校野球千葉県大会に出場できることになりました。ユニフォームも学校で新調して下さい、1回戦千葉公園球場で成東高校と対戦することになりました。焼けつく炎天下で精一杯戦いました。初めての公式戦で、全校生徒の皆さんに応援していただきました。私も1塁手として出場し、精一杯頑張りましたが、結果は14対2の8回コールド負けとなってしまいました。負けた悔しさと練習の大切さを身をもって経験しました。

3年目の夏、大谷津球場で、1回戦流山東高校と対戦しました。なかなか梅雨が明けず、日程が繰り延べ繰り延べで、7月18日(日)に試合となりました。私はピッチャーとして出場し、初回より投球を続けました。互いに力の伯仲するシーソーゲームで延長戦となり、14回裏、四球で出塁していた福田君が、服部君のレフト前ヒットによってホームベースにすべりこみ、相手チームのキャッチャーが落球し、かろうじて1点が加わり、4対3のスコアで劇的なサヨナラ勝ちをおさめました。

地元球場での試合で全校生徒の応援を受け、しかも地域の皆さんの熱い声援を頂き、苦しい試合の末、初勝利ができたことは、自分の人生の中で貴重な思い出として深く脳裏に残っています。

卒業以来3年の月日が流れましたが、北高で勉強や野球の活動に夢中になっていたことが、つい昨日のように思われます。今職場で仕事を進める時、野球部で培ったチームワークと粘り強さの精神は大いに役立っています。

私たち1期生は後輩の皆さんの先導的役割を自覚し、精一杯社会で頑張っています。そして、北高を卒業してはじめて高校時代の大切さを知り、なつかしく、人生の基礎の確立がなされた高校時代に、思いをめぐらすこのごろです。